

『古代アメリカ』19, 2016, pp.47-61

<調査研究速報>

## メソアメリカ比較文明論試論

### —古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて—

青山和夫  
(茨城大学)

#### 1. 「古代アメリカの比較文明論」におけるメソアメリカ文明の比較研究

##### 1-1. 問題の所在と本論の目的

私たち人類にとって、文明とは何なのか。メソアメリカ文明とアンデス文明は、新人が1万数千年前にアメリカ大陸に渡ってから16世紀にスペイン人が侵略するまで、旧大陸の諸文明と交流することなく、アメリカ大陸の内部で独自に興隆した一次文明であった。旧大陸の諸文明が相互に影響しながら展開してきたことを考えると、人類史における古代アメリカの諸文明の特異性と重要性は明らかである。しかしながら日本において世界の古代文明といえば、西洋や日本と密接な関係にあった旧大陸のいわゆる「四大文明」（メソポタミア、エジプト、インダス、古代中国）を指し、先スペイン期のアメリカ大陸や他の地域の古代文明を軽視する傾向がある。一次文明として世界六大文明を構成したメソアメリカ文明とアンデス文明の実像はまだあまり良く知られておらず、「謎・神秘の古代文明」として誤解されている。また中南米の古代文明として一括され、「マヤ・アステカ・インカ」というふうに分同されることが多い〔青山 2007:13, 2012:13〕。

こうした残念な傾向は、先スペイン期のアメリカ大陸の文化や歴史に関する記述が、ユーラシア大陸と比べて質量共に極めて貧弱な世界史の教科書によって助長されてきた。古代アメリカ学会の会員の努力によって、先スペイン期アメリカ大陸史に関する高等学校世界史の新課程教科書の記述は2013年にある程度は改善された〔青山他 2013〕。しかし、今なお学術研究と一般社会の隔たりは大きい。研究成果の普及と歴史教育への貢献は、古代アメリカ研究者を含む全ての考古学者・歴史学者の重要な使命である。メソアメリカ文明（オルメカ、マヤ、サポテカ、テオティワカン、トルテカ、アステカなどの総称）とアンデス文明（形成期の諸社会、モチェ、ナスカ、ワリ、ティワナク、チムー、インカなどの総称）の諸社会の類似点（共通性）と差異（変異性）をより明らかにして、両文明はそれぞれどのような文明なのかについて一般社会に積極的に発信し続けなければならない。

世界の学界に目を向ければ、旧大陸の文明の影響を受けずに発達した一次文明としてのメソアメリカ文明とアンデス文明それぞれの特性や社会変化が比較研究によって十分に検討されてきたとはいえない。テーマ毎の比較考古学研究はなされているが、メソアメリカ文明とアンデス文明が個別に研究される傾向が強い〔e.g., Aveni 2015; Conrad and Demarest 1984; Hirth and Pillsbury 2013; Scherer and Verano 2014〕。

科学研究費補助金新学術領域研究の助成による「古代アメリカの比較文明論」プロジェクト（平成26～30年

度、領域代表者：青山和夫、<http://dendro.naruto-u.ac.jp/csaac/>) は、科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」プロジェクト（平成 21～25 年度、領域代表者：青山和夫 [青山他 2014a, 2014b]）の成果を踏まえて、従来の世界史研究で軽視されてきたメソアメリカ文明とアンデス文明という、古代アメリカの二大文明について、考古学、歴史学、文化人類学などの異なる分野の人文科学と自然科学の研究者が連携して、新たな視点や手法による古代アメリカの比較文明論の新展開を目指す [青山他 2014c]。その目的の一つが、精密な編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明の諸社会の数千年にわたる詳細な通時的な変化過程の事例を比較研究することである。すなわち、両文明それぞれの特性だけでなく、いつ、なぜ、どのように諸社会が変化したのかについて、環境変動だけでなく、社会的な要因（権力、王権、農耕、牧畜、戦争、政治、経済、イデオロギーや人口変動など）に関して多面的に事例を比較し、多様な対処方法を明らかにする。さらにこれらの成果をもとに導かれる歴史的教訓と文明研究の今日的意義を探求する。

本論の目的は、メソアメリカ文明とアンデス文明の諸社会でそれぞれ共有された社会的・文化的な実践に関する類似点（共通性）と差異（変異性）および両者の社会変化の過程（プロセス）を比較し、両文明の特性を検討することによってメソアメリカ文明の特徴をより明確にすることである。本論は、古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて、両文明の諸社会の変化に関する事例研究の通時的な比較研究を行う前の基礎的な作業の一つと位置付けられる。

## 1-2. メソアメリカの動的な定義

メソアメリカは、いうまでもなく先住民にとって他称であるが、その定義については多くの議論がある [e.g., Adams 1991; Adams and MacLeod 2000; Blanton et al. 1993; Carmack et al. 2007; Carrasco 2001; Evans 2008; Evans and Webster 2001; Hendon and Joyce 2004; Kirchhoff 2009[1960]; Nichols and Pool 2012; Palka 2000; Witschey and Brown 2012]。ドイツ民族学者キルヒホフはメキシコに渡り、文化領域（culture area）としてのメソアメリカという定義を 1943 年に提唱し、定着させた [Kirchhoff 2009[1960]]。キルヒホフが定義した文化領域は、「高位の農耕民（「高位の文化」）（Los cultivadores superiores [“altas culturas”]）」が 16 世紀初頭に居住した地理的範囲を指す。これは文化要素の一覧表に基づいた地理的範囲であり、静的な定義であることが問題といえよう。

本論では、カーマックら [Carmack et al. 2007:6] による「先住民諸文化特有の歴史伝統（a particular historical tradition of aboriginal cultures）」としてのメソアメリカの定義を大幅に修正加筆して、「アメリカ大陸の中央部で 16 世紀にスペイン人が侵略するまで様々な文明が栄え、その豊かな文化・歴史伝統が創造され続けている文化

実践の分野	考古学的に認識可能な文化要素
生業	トウモロコシ、豆類、カボチャ、トウガラシを基本とし、人力と掘り棒による農耕、家畜の犬と七面鳥、土器による調理、定住
経済	黒曜石、翡翠、カカオ、ケツアルの羽根など遠距離交換、地域間交換、地域内交換、手工業生産と洗練された美術様式（石器、石彫、彩色土器、金属製装飾品など）
政治	都市、王国、神聖王、王墓、王宮、戦争、政略結婚、貧富・地位の差異
世界観と儀礼	20 進法の数字体系、様々な周期を組み合わせた循環暦、文字、天文学、二元論的な世界観、絵文書、公共祭祀建築（神殿ピラミッドや球技場）、宗教体系、儀礼用の蒸し風呂

表 1 メソアメリカで共有された社会的・文化的な実践と考古学的に認識可能な文化要素

[青山 2007 : 表 2 ; Joyce 2004:4 をもとに作成]

史的領域」という動的な定義を用いる。後述するように、メソアメリカはネットワーク型の文明であり、長期間にわたる広範な地域間交流を通して様々な社会的・文化的な実践を創り上げ、共有した。本論では、生業、経済、政治、世界観と儀礼といった諸分野において共有された社会的・文化的な実践[青山 2007:表 2; Joyce 2004:4]に基づきメソアメリカ比較文明論の試論を論じる。表 1 は、共有された社会的・文化的な実践の分野毎に考古学的に認識可能な文化要素をまとめている。

### 1-3. 古代アメリカ文明の人類史的な位置付け

世界六大文明というアメリカ大陸と旧大陸の一次文明を対等に位置付け、よりバランスの取れた「真の世界史」・「真の文明史」の構築に貢献するために、メソアメリカ文明とアンデス文明の比較研究は極めて重要である。両文明を人類史的に位置付けると、以下の 3 点の類似点を挙げることができる [e.g., Carrasco 2001; Evans 2008; Evans and Webster 2001; Kolata 2013; Moore 2014; Morris and von Hagen 2011; Moseley 2001; Nichols and Pool 2012; Quilter 2014]。

(1) 世界六大文明という一次文明としての古代アメリカの二大文明：メソアメリカとアンデスは、旧大陸の諸文明と交流することなく、狩猟採集社会から定住農耕社会、さらに王国に発展した先住民独自の一次文明であった。メソアメリカとアンデスは独自に文明が誕生した世界でもまれな地域であり、その文明の形成過程の解明は、古代アメリカ大陸史だけでなく人類史を考える上でも重要である。

(2) 旧大陸の一次文明と比較しうる類似点をもつ文明：先古典期後期（前 400～後 250 年）以降のメソアメリカ文明と遅くとも 6 世紀以降のアンデス文明には、①都市、②王国、③神聖王、④農業を基盤とした生業、⑤戦争、⑥政略結婚、⑦巨大な記念碑的建造物、⑧洗練された美術、⑨貧富・地位の差異といった、世界六大文明に共通する類似点を有する。

(3) 栽培植物という生活基盤から世界の歴史を変えた文明：1492 年以前のアメリカ大陸では、先住民によって 100 以上の植物が栽培化されていた。コロンブスによるアメリカ大陸のいわゆる「発見」、あるいは「新旧両大陸の出会い」が、西洋社会に新しい食料源をもたらして人口が大幅に増加し、繁栄を極めた。アメリカ大陸原産の栽培植物は、世界の栽培種の 6 割を占める [Weatherford 1988:204]。栽培植物という生活基盤から世界の歴史が変わり、結果的に世界の食文化革命が起こった。トウモロコシやジャガイモなどの作物は、旧大陸原産の米や麦を栽培できない、痩せた土地でも高い収穫量を期待できたので飢饉がしだいに少なくなり、各地で人口が増加していった。ヨーロッパ人が略奪し尽くした先住民の「贈り物」が、結果的に旧大陸の人々を救った。トウモロコシは、麦、稲と共に世界 3 大穀物を構成し、世界の穀物生産の 1 位を占める。トウモロコシが家畜の飼料として利用されることによって、家畜頭数が飛躍的に増加して肉、卵、牛乳、乳製品の供給量が増えた [青山 2015:14]。その結果、タンパク質の摂取量が増え、現代人の栄養状態や体格が大きく改善された。

## 2. メソアメリカ文明の特徴：共有された社会的・文化的な実践のアンデス文明との比較

メソアメリカ文明の特徴をより明確にするために、メソアメリカとアンデスの諸社会でそれぞれ共有された生業、経済、政治、世界観と儀礼といった社会的・文化的な実践に関する類似点（共通性）と差異（変異性）を多面的に比較する [e.g., Adams and MacLeod 2000; 青山 2007, 2015; 青山・猪俣 1997; Blanton et al. 1993; Carmack et al. 2007; Carrasco 2001; Evans 2008; Evans and Webster 2001; Hendon and Joyce 2004; 井上 2014; 加藤・関 1998; 小林 1995; Kolata 2013; Moore 2014; Morris and von Hagen 2011; Moseley 2001; Nichols and Pool 2012; 大貫・加藤・関

2010; Palka 2000; Quilter 2014; 杉山・嘉幡・渡部 2011; 関 2006, 2010, 2015; 関・青山 2005; Witschey and Brown 2012]。両文明でそれぞれ共有された社会的・文化的な実践の類似点は表 2 に、差異は表 3 にそれぞれまとめてある。

## 2-1. 生業

### 2-1.1) 類似点

① 極めて多様な自然環境に適応した文明：中央アンデスほどではないが、高度差による自然環境の変化が顕著（熱帯雨林、熱帯サバンナ、ステップ、針葉樹林など）であり、高地と低地に二分できる [e.g., Carmack et al. 2007:8-12]。メソポタミア文明やエジプト文明の「乾燥地域の大河流域の平地」とは異なり、メソアメリカ文明は熱帯雨林や高地を含む、多様な自然環境で発達した。

② 初期の定住と季節的な移住が共存：先古典期前期（前 1800～前 1000 年）のメソアメリカや形成期早期（前 3000～前 1800 年）のアンデスでは、一部の人々が定住し、一部は季節的に移住した [e.g., Lesure 2011]。

③ 農耕定住が成立する以前の非農耕定住社会：動植物遺体や人骨の同位体の分析によれば、先古典期前期の定住はトウモロコシなどの栽培植物はまだ生業の基盤をなさず、前 5000 年頃からのアンデス海岸部の漁労定住と同様に、漁労や狩猟採集に依存した [Arnold 2009]。

④ 土器の使用が比較的遅かった文明：土器の容器の起源は、メソアメリカでは前 1800 年頃であり、アンデスとはほぼ同時期にあたる。メソアメリカ最古の土器群には大きな地域差があり、チアパス・グアテマラ太平洋岸低地、オアハカ盆地のサン・ホセ・モゴテ (San José Mogote) 遺跡、メキシコのテワカン (Tehuacán) 盆地のプロン (Purrón) 岩陰遺跡、メキシコ西部ゲレロ州のプエルト・マルケス (Puerto Marquez) 貝塚遺跡などメソアメリカの各地で独自に生産された [Clark and Gosser 1995]。これらの土器は、日本列島で最古の縄文土器より 1 万年以上も後に製作され、南米アマゾン低地アメリカ大陸最古の土器（前 5600 年頃 [Roosevelt 1995]）よりもかなり遅い。

⑤ 車輪のない文明：メソアメリカとアンデスでは車輪は実用化されなかった [e.g., Sabloff 1997:21]。

⑥ ミルクの香りのしない文明：ミルクを飲んでバターやチーズを食べる「四大文明」のような畑作牧畜民に対して、メソアメリカ文明とアンデス文明を含む環太平洋地域には動物のミルクを飲まず、乳製品を食べない「ミルクの香りのしない文明」があった [安田 2009]。

実践の分野	類似点
生業	①極めて多様な自然環境に適応した文明、②初期の定住と季節的な移住が共存、③農耕定住が成立する以前の非農耕定住社会、④土器の使用が比較的遅かった文明、⑤車輪のない文明、⑥ミルクの香りのしない文明
経済	①石器の都市文明、②鉄器のない文明、③支配層がものづくりをする文明
政治	①主に非囲壁都市、②アンデス文明やテオティワカン文明の図像では、王など特定の権力者の人物像は少ない、③王は神聖王であり、王宮や王墓が建造された、④戦争や政略結婚、⑤貧富・地位の差異
世界観と儀礼	①多神教、②循環的な時間の概念、③二元論的な世界観、④神殿更新の文明

表 2 メソアメリカとアンデスでそれぞれ共有された社会的・文化的な実践の類似点：メソアメリカの特徴

## 2-1.2) 差異

① アンデスとは異なり、海拔 3000m を超える高地は居住されなかった：アンデスでは海拔 3500～4800m の高地で耐寒性の根菜類の栽培、リャマやアルパカの牧畜が行われた [関 2010:8]。

② 海岸部では、アンデスのような海岸砂漠地帯はなかった：メソアメリカ沿岸部では、人々は熱帯雨林、熱帯サバンナやステップに居住した [e.g., Carmack et al. 2007:16-18]。

③ 非農耕定住がアンデスより 3000 年ほど遅かった：アンデスの海岸部では前 5000 年頃から漁労定住が成立した [関 2015:130]。漁労や狩猟採集に依存した非農耕定住の明確な証拠は、メソアメリカでは先古典期前期 (前 1800～前 1000 年) に認められる [e.g., Lesure and Wake 2011]。

④ 農耕定住がアンデスより 2000 年ほど遅かった：アンデスの高地や海岸部の河川地域では前 3000 年頃から農耕定住が成立した [関 2010:45]。トウモロコシ農耕を基盤とする定住は、メソアメリカでは先古典期中期 (前 1000～前 400 年) 以降であった [e.g., Smalley and Blake 2003]。

⑤ 非大河灌漑農業の文明：大河川を文明の誕生の必要条件とせず、非大河灌漑農業 (中小河川、湖沼や湧水などを利用した灌漑農業、段々畑、家庭菜園、焼畑農業など) が中心であった [e.g., 青山 2007:34; Scarborough 2009]。メキシコ盆地やグアテマラ盆地では、大河川ではなく湖水の大規模な灌漑農業が行われた。メソアメリカは、「乾燥地域の大河流域で大規模な灌漑治水事業」を発達させない文明であった。アンデス文明は、エジプト文明のような 1 本の大河の利用とは異なり、湾岸平野に流れる複数の川の大規模な灌漑農業が行われ、アンデス山地の斜面では段々畑に灌漑水路を巡らして集約農業が営まれた [増田・青山 2010:30]。

⑥ トウモロコシを主食：アンデスでは多種多様なイモ類とトウモロコシなどを組み合わせた [e.g., Quilter 2014:39]。

⑦ 牧畜のない人力文明：家畜は七面鳥と犬だけであった [e.g., Zeitlin and Zeitlin 2000:96]。メソアメリカは、結果的に大型家畜や荷車を必要としなかった人力文明といえる。車輪付きの動物土偶が示すように、車輪の原理は知られていたが、大型の家畜がないので荷車や犁は発達しなかった。荷駄運搬用のリャマやアルパカ (食料、毛織物) のような牧畜ラクダ科動物もいない。アンデスではアヒル、クイヤや犬も家畜化された [Morris and von Hagen 2011:14]。メソポタミアではウシ、イノシシ (家畜化されたのがブタ)、ヤギ、ヒツジなど、家畜化が可能な大型動物が豊富であり [常木 2014]、メソアメリカの犬や七面鳥よりも確実に多くの肉や脂肪を確保した。

## 2-2. 経済

### 2-2.1) 類似点

① 石器の都市文明：石器を主要利器とした洗練された「石器の都市文明」であった [青山 2007:21]。石器を主要利器とする新石器段階の技術によって、多くの人間を動員して手間と暇をかけて基本的に手作業で築いた都市文明といえる。石器が主要利器であったことは、メソアメリカ文明とアンデス文明が、旧大陸の「四大文明」よりも「遅れていた」ことを必ずしも意味しない。

② 鉄器のない文明：金や銅製品など大部分の金属製品は装飾品や儀式器であり、アンデス文明と同様に、鉄は一切使用されなかった [e.g., Maldonado 2012]。

③ 支配層がものづくりをする文明：少なくとも一部の王族や貴族が美術品を製作する工芸家であった [e.g., Aoyama 2009; Inomata 2001; Morris and von Hagen 2011:160]。



## 2-2.2) 差異

① 黒曜石製石刃を大量に製作・使用した文明：メソアメリカ文明を代表する石器は、黒曜石製石刃であった [e.g., Hirth 2003]。整形された黒曜石製石刃核から定型的な石刃を大量に押圧剥離する文化実践は、アンデス文明にはなかった。

② 冶金術の発達がアンデスより 2000 年ほど遅かった：アンデスではアメリカ大陸最古の形成期前期から中期（前 1410～前 1090 年）にかけて金製品などの金属器が製造された [日高他 2014]。対照的にメソアメリカではかなり遅く、メキシコ西部で後 600 年頃から冶金術が発達した [Hosler 1994]。

③ 洗練された石彫を多用した文明：ペルー国立考古学博物館とメキシコ国立人類学博物館の展示に顕著に示されているように、アンデス文明では、メソアメリカ文明と比べると石彫が少ない。

実践の分野	差異
生業	①アンデスとは異なり、海拔 3000m を超える高地は居住されなかった、②海岸部では、アンデスのような海岸砂漠地帯はなかった、③非農耕定住がアンデスより 3000 年ほど遅かった、④農耕定住がアンデスより 2000 年ほど遅かった、⑤非大河灌漑農業の文明、⑥トウモロコシを主食、⑦牧畜のない人力文明
経済	①黒曜石製石刃を大量に製作・使用した文明、②冶金術の発達がアンデスより 2000 年ほど遅かった、③洗練された石彫を多用した文明
政治	①統一王国のない文明、②ネットワーク型の文明、③王国の食料倉庫が整備されなかった、④都市がアンデスよりも 1000 年ほど早く発達した、⑤農耕定住から数百年で都市が発展、⑥王国や王権がアンデスよりも数百年早く発達、⑦アンデス文明と比べると、マヤ文明やサポテカ文明の図像では王や貴族などの特定の権力者の人物像が多い
世界観と儀礼	①公共祭祀建築の建設がアンデスより 2000 年ほど遅かった、②「はじめに土器ありき、神殿は土器の後」、③メソアメリカの神殿更新は王権を強化する政治的道具、④文字文明、⑤20 進法の文明

表3 メソアメリカとアンデスでそれぞれ共有された社会的・文化的な実践の差異

## 2-3. 政治

### 2-3.1) 類似点

① 主に非囲壁都市：メソポタミア、ギリシア、ローマ、古代中国の防御壁に囲まれた都市とは異なり、メソアメリカとアンデスでは、例外はあるものの非囲壁都市が主流であった [e.g., Lamberg-Karlovsky and Sabloff 1995:349; Sabloff 1997:28]。

② アンデス文明やテオティワカン文明の図像では、王など特定の権力者の人物像は少ない：人物像は総体的に極めて非個人的であり、図像は動物、植物や神々が多い [Cowgill 2015]。

③ 王は神聖王であり、王宮や王墓が建造された [e.g., Inomata and Houston 2001; Lamberg-Karlovsky and Sabloff 1995:359]。

④ 戦争や政略結婚 [Kolata 2013:212; Scherer and Verano 2014]。

⑤ 貧富・地位の差異 [e.g., Adams 1991:19-20; Lamberg-Karlovsky and Sabloff 1995:346]。

### 2-3.2) 差異

① 統一王国のない文明：インカ（15世紀半ば～1532年）が決して一枚岩ではない多神教の「帝国」として究極的に中央アンデスを統合したのとは対照的に、メソアメリカでは諸王国が共存した [e.g., Carmack et al. 2007:6]。

② ネットワーク型の文明：政治的に統合されたインカとは異なり、メソアメリカでは先スペイン期を通して広範な地域間ネットワークによって社会的・文化的な実践を創り上げ、共有した [Joyce 2004:3]。メソアメリカは、ネットワーク型のインダス文明 [長田 2013] と類似点があり、いわゆる中央集権的な文明観を覆す。

③ 王国の食料倉庫が整備されなかった：メソアメリカでは、インカのような国家の食料倉庫を整備した地方センターは建設されなかった [Morris and von Hagen 2011:61-62]。

④ 都市がアンデスよりも1000年ほど早く発達した。本論では、都市を大きな人口（5000人以上）が密集し、農業以外の多様な活動と相互依存的な経済、複雑な政治組織を有した大きな集落と定義する [Sabloff 1997:28-30; von Hagen and Morris 1998:28]。メソアメリカでは先古典期後期（前400～後250年）以降に、アンデスでは遅くとも6世紀以降にそれぞれ都市が発展した [von Hagen and Morris 1998:83]。

⑤ 農耕定住から数百年で都市が発展：食料獲得経済から食料生産経済へ移行していく過程は数千年にわたったが、農耕定住村落の確立後に数千年以上かけて都市が形成されたメソポタミアやアンデスと比べると、トウモロコシ農耕を基盤とする定住生活（前1000年以降）から数百年後の比較的短期間で、マヤ文明、サポテカ文明やテオティワカン文明で先古典期後期に都市が発展した [e.g., Blanton et al. 1993]。

⑥ 王国や王権がアンデスよりも数百年早く発達：メソアメリカでは王権は先古典期後期に発達したが、アンデスでは紀元前後に成立したモチェ社会において遅くとも6世紀に王国や王権が成立した [Shimada 1994]。

⑦ アンデス文明と比べると、マヤ文明やサポテカ文明の図像では王や貴族などの特定の権力者の人物像が多い：特にマヤ文明の人物像はアンデス文明と比べて極めて写実的である [e.g., Miller 2012]。

## 2-4. 世界観と儀礼

### 2-4.1) 類似点

① 多神教：太陽、山、ネコ科動物、蛇、鳥などを崇拜した [e.g., Miller and Taube 1993]。

② 循環的な時間の概念：時間を直線的に捉えるよりもむしろ循環的な時間の概念を重視した [Aveni 2015; Morris and von Hagen 2011:8]。

③ 二元論的な世界観 [Miller and Taube 1993:81-82]。

④ 神殿更新の文明：メソアメリカとアンデスで儀礼的意味をもつ神殿更新が行われた [e.g., Inomata et al. 2013; 大貫・加藤・関 2010]。

### 2-4.2) 差異

① 公共祭祀建築の建設がアンデスより2000年ほど遅かった：アンデス文明では、セチン・バホ (Sechín Bajo) 遺跡（前3600～前3000年）やカルル (Caral) 遺跡などでメソアメリカよりもはるかに古い公共祭祀建築（神殿）が建造された [Moore 2014:231; Shady 2007]。メソアメリカでは、先古典期前期のロコナ (Locona) 期（前1600～前1500年）に、メキシコのチアパス太平洋岸低地のパソ・デ・ラ・アマダ (Paso de la Amada) 遺跡でメソアメリカ最古の土製球技場 [Clark 2004]、グアテマラ太平洋岸低地のグラヘダ (Grajeda) 遺跡で底辺の長さ150×100m、高さ6.2mの大きな土製基壇が建造された [Arroyo et al. 2002]。

② 「はじめに土器ありき、神殿は土器の後」：メソアメリカでは土器が出現した後に公共祭祀建築が建設された。アンデスでは泉靖一 [1966] が「はじめに神殿ありき」と提唱したように、先土器時代に公共祭祀建築があった。

③ メソアメリカの神殿更新は王権を強化する政治的道具：メソアメリカでは先古典期後期以降に、神殿更新が神聖な山を増改築して王権を強化する政治的手段になった [青山 2013:102-105]。アンデスの形成期（前 3000 年～紀元前後）では、巨大な神殿は社会構成員の自主的な共同労働によって更新され続けたので権力の発現は極めて限定的であり、形成期末期に神殿の建設が停止した [関 2006:214]。

④ 文字文明：無文字社会であった形成期の諸社会、モチェ、ナスカ、ワリ、ティワナク、チムーヤインカといったアンデスとは対照的に、マヤ文明、サポテカ文明、アステカ文明などで文字（ゼロの文字、算術、暦、歴史、天文学）が発達した [e.g., Houston 2004]。テオティワカンでは、発達した文字体系なしに古典期のアメリカ大陸最大の都市を発展させた [杉山 2015]。

⑤ 20 進法の文明：メソアメリカの 20 進法の数字体系に対して、アンデスのキープでは縄の結び目によって 10 進法の数字を表現し、人口、兵力、作物や家畜などを記録した [Morris and von Hagen 2011:34-35]。

### 3. メソアメリカ文明とアンデス文明の異なる社会変化の過程と要因の解明に向けて

比較文明論の研究においては、文明の形成や社会変化の過程と要因を解明して比較することが重要である。メソアメリカ文明とアンデス文明の比較研究において、共有された社会的・文化的な実践の分野毎にまとめた考古学的に認識可能な文化要素のうち、土器、定住、公共祭祀建築、農耕、牧畜、文字、都市、王国、冶金術といった、文明の一般的な指標を用いて比較すると極めて異なる社会変化の過程があったことがわかる (図 1)。メソアメリカでは、土器と非農耕定住が前 1800 年頃に起こった。土器の起源は、アンデスとほぼ同時期であるが、非農耕定住は、アンデス海岸地帯で前 5000 年頃に漁労定住が成立してから 3000 年ほど遅かった。公共祭祀建築（神殿）は前 1600 年頃に建設され、アンデスより 2000 年ほど遅れた。「はじめに神殿ありき」のアンデスでは先土器時代に公共祭祀建築が建造されたのに対して、メソアメリカでは「はじめに土器ありき、神殿は土器の後」であった。メソアメリカとアンデスの共通点は、非農耕定住社会に公共建築が建てられたことである。一方、農耕定住は、アンデスよりも 2000 年ほど遅く前 1000 年以降であった。アンデスでは農耕定住と牧畜が前 3000 年頃に確立されたが、メソアメリカでは牧畜は発達しなかった。

対照的にメソアメリカでは、文字は前 6 世紀頃から使われたが、アンデスでは文字がなかった。メソアメリカの都市は前 400 年以降にアンデスよりも 1000 年ほど早く築かれ始めた。旧大陸の先産業社会の諸都市と類似点をもちながらも異なった特徴をもった「メソアメリカ的な都市」および「アンデス的な都市」とは何なのかを追求していくことは、人類史の中で「都市とは何か」を明らかにする上で極めて重要である。メソアメリカの王国や王権は前 100 年以降に、アンデスよりも数百年早く発達した。しかしながら冶金術の発達はメソアメリカでは 600 年以降であり、アンデスと比べると 2000 年ほど遅かった。

こうした社会変化の過程の差異は、なぜ、どのように生じたのであろうか。メソアメリカでは、農耕定住村落の確立後に数千年以上かけて都市が形成されたアンデスと比べると、トウモロコシ農耕を基盤とする定住生活（前 1000 年以降）から数百年後の比較的短期間で都市が発展した。たとえば、マヤ文明のセイバル (Ceibal) 遺跡では、公共祭祀の舞台である公共祭祀建築と公共広場が前 1000 年頃に建設されたが、その建設や増改築の必要性を住民に納得させて物質化したイデオロギーがマヤ文明の形成に重要な役割を果たした [Inomata et al.



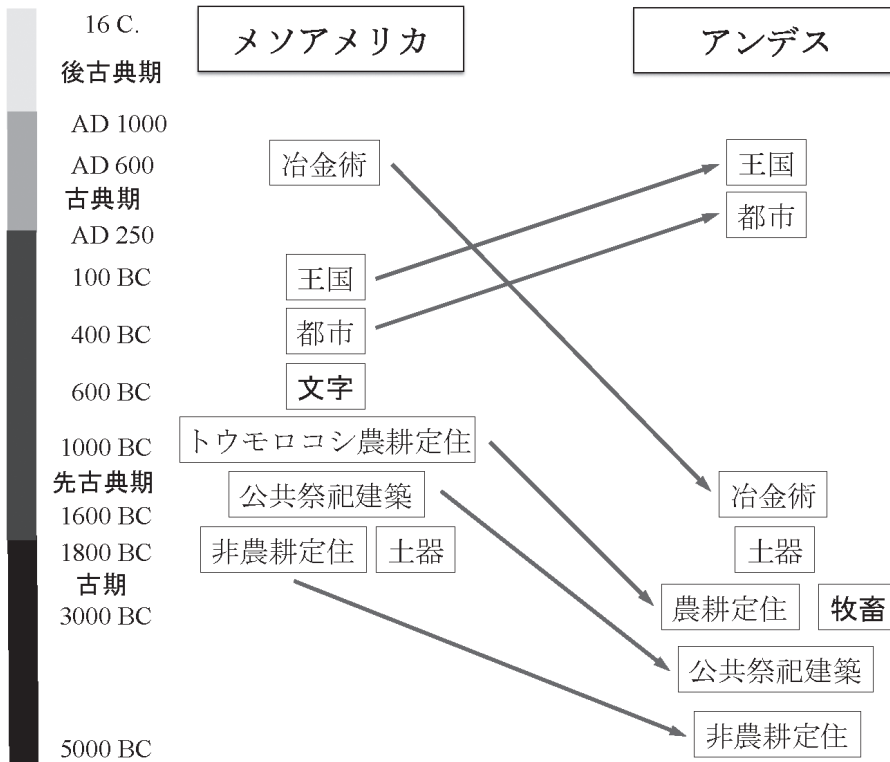


図1 メソアメリカとアンデスの社会変化の比較

2013]。セイバル遺跡では居住の定住性の度合いが異なる多様な集団が、共同体の公共祭祀および公共祭祀建築や公共広場を建設・増改築（神殿・広場更新）する共同作業によって社会的な結束やアイデンティティを固めた [Inomata et al. 2015]。マヤの人々は遠距離・地域間交換に参加して、重要な物資だけでなく、観念体系や美術・建築様式などの知識を取捨選択しながら交換してマヤ文明を築き上げていった [青山 2013]。

メソアメリカの都市文明形成のもう一つの要因としては、前1000年頃にトウモロコシの品種改良の過程で大きな転換点があった可能性が高い。大きな穂軸と穀粒を有する、生産性の高いトウモロコシが生み出され、トウモロコシ農耕を基盤とする生業が確立されていった [Houston and Inomata 2009:74]。このことは、人骨の同位体分析や先古典期中期以降にトウモロコシの神の図像がメソアメリカで顕著になることに示されている。生産性の高いトウモロコシが定住を促し、土器でトウモロコシ、マメやカボチャなどを煮炊きすることによって、幼児や老人にも食べやすくなり、寿命も延びて人口が増えていった。先古典期中期のメソアメリカでは、生産性の高いトウモロコシ農耕を基盤とする生業による急速な社会変化、すなわち「農耕革命」が起こった。

フランスの歴史学者フェルナン・ブローデル [1985] は、トウモロコシを「奇跡の食物」と呼んだ。トウモロコシは生育が早く、栽培が簡単で便利な作物である。平地だけでなく傾斜地でも栽培できる。水田のような手間がかからず、森を焼いて種を蒔くだけでほとんどひとりでに育ち、高い生産性が望める。植民地時代（1521～1821年）のメキシコでは種1粒から100～200粒のトウモロコシが生産されたのに対して、同時期のヨーロッパではコムギ1粒から収穫されたのは5粒ほどであった。トウモロコシは乾燥・貯蔵が容易であるだけでなく、その栽培が農民に余暇を生み出した。そしてトウモロコシの余剰生産は、メソアメリカに都市文明を生み出し

た原動力の一つとなった。先古典期後期には、マヤ文明、サポテカ文明やテオティワカン文明で都市が発展した。それは、日本列島の弥生時代と同時期であった。

日本の天皇が稲作の儀礼に深く関わってきたのと同様に、トウモロコシはメソアメリカの王権や精神世界においても重要であった [Miller and Taube 1993:108-110]。トウモロコシの神の図像は、石彫、壁画、土器や絵文書に頻繁に表象された。諸王は宗教儀礼においてトウモロコシの神をはじめ様々な神々の仮面・衣装・装飾品を着用して、しばしば神々の役割を果たした。トウモロコシの発酵酒チチャは、宗教儀礼に用いられた。メソアメリカではトウモロコシが主食になり、現在までタマルやトルティーヤとして食べられ続けている。興味深いことに、侵略された先住民の主食が、メソアメリカの大部分の地域において非先住民の主食になっている。

多種多様なイモ類とトウモロコシなどを組み合わせたアンデスでは、メソアメリカのような生産性の高いトウモロコシはいつ頃から栽培されたのだろうか。先スペイン期のアンデスでは、トウモロコシはトルティーヤとして食べられなかった。食べ物やチチャ酒としてのトウモロコシの社会的な役割および王権や精神世界におけるトウモロコシの重要性は、メソアメリカとアンデスではどのような類似点や差異があったのだろうか。

メソアメリカとアンデスは、旧大陸の諸文明と交流することなく、狩猟採集社会から定住農耕社会、さらに王国に発展した先住民独自の一次文明であった。旧大陸世界との交流なしに独自に発展した古代アメリカの比較文明論の研究は、文明とは何か、なぜ、どのように文明は興り変化したのかについて、旧大陸の「四大文明」あるいは西洋文明と接触後の社会の研究だけでは得られない、新たな文明史観や視点を提供して「真の世界史」・「真の文明史」の構築に大きく貢献できる。今後は、「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの共同研究において、精密な編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明の諸社会の変化の過程と要因に関する事例研究の通時的な比較研究を展開していく。

#### 【謝辞】

本論は、平成26～30年度日本学術振興会科学研究費補助金新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」（領域代表：青山和夫、課題番号26101003）の成果の一部であり、2016年1月23日にキャンパス・イノベーションセンター東京で開催された「古代アメリカの比較文明論」のA02メソアメリカ比較文明論班とA03アンデス比較文明論班の合同研究会の拙発表を大幅に修正したものである。合同研究会の参加者から有益なコメントをいただいた。また関雄二先生からアンデス文明の最新の研究成果についてご教示いただいた。さらに2名の査読者から極めて建設的で有益な修正点をご指摘いただいた。記して感謝します。

#### 参考文献

Adams, Richard E. W.

1991 *Prehistoric Mesoamerica*. Revised edition. University of Oklahoma Press, Norman and London.

Adams, Richard E. W., and Murdo J. MacLeod (eds.)

2000 *The Cambridge History of the Native Peoples of the Americas Volume II: Mesoamerica*. Cambridge University Press, Cambridge.

青山和夫 Aoyama, Kazuo

2007 『古代メソアメリカ文明：マヤ・テオティワカン・アステカ』 講談社選書メチエ。

- 2009 *Elite Craft Producers, Artists, and Warriors at Aguateca: Lithic Analysis*. Monographs of the Aguateca Archaeological Project First Phase Vol. 2. University of Utah Press, Salt Lake City.
- 2012 『マヤ文明：密林に栄えた石器文化』 岩波新書。
- 2013 『古代マヤ：石器の都市文明（増補版）』 京都大学学術出版会。
- 2015 『マヤ文明を知る事典』 東京堂出版。
- 青山和夫・猪俣健
- 1997 『メソアメリカの考古学』 同成社。
- 青山和夫・坂井正人・井上幸孝・井関睦美・長谷川悦夫・嘉幡茂・松本雄一
- 2013 「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったのか：新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」 『古代アメリカ』 16:85-100。
- 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土
- 2014a 『マヤ・アンデス・琉球 環境考古学で読み解く「敗者の文明」』 朝日選書。
- 2014b 『文明の盛衰と環境変動：マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像』 岩波書店、東京。
- 青山和夫・米延仁志・坂井正人・鈴木紀
- 2014c 「『古代アメリカの比較文明論』プロジェクトの目標と展望」 『古代アメリカ』 17:119-127。
- Arnold, Philip J.
- 2009 Settlement and Subsistence among the Early Formative Gulf Olmec. *Journal of Anthropological Archaeology* 28:397-411.
- Arroyo, Bárbara, Hector Neff, Deborah Pearsall, John Jones, and Dorothy Freidel
- 2002 Ultimos Resultados del Proyecto sobre el Medio Ambiente Antiguo en la Costa del Pacífico. *XV Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, edited by Juan Pedro Laporte, Héctor Escobedo and Bárbara Arroyo, pp. 415-423. Museo Nacional de Arqueología y Etnología, Guatemala.
- Aveni, Anthony F. (ed.)
- 2015 *The Measure and Meaning of Time in Mesoamerica and the Andes*. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.
- Blanton, Richard, Stephen A. Kowalewski, Gary M. Feinman, and Laura M. Finsten
- 1993 *Ancient Mesoamerica: A Comparison of Change in Three Regions*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Braudel, Fernand ブローデル、フェルナン
- 1979[1985] *Civilisation matérielle, économie et capitalisme, XV<sup>e</sup>-XVIII<sup>e</sup> siècle*. Armand Colin, Paris. (『物質文明・経済・資本主義：15-18世紀 I-1 日常性の構造1』 村上光彦訳：みすず書房)
- Carmack Robert M., Janine L. Gasco, and Gary H. Gossen
- 2007 *The Legacy of Mesoamerica: History and Culture of a Native American Civilization*. Second edition. Prentice Hall, Upper Saddle River.
- Carrasco, David (ed.)
- 2001 *The Oxford Encyclopedia of Mesoamerican Cultures: The Civilizations of Mexico and Central America*. Oxford University Press, Oxford.
- Clark, John E.
- 2004 Mesoamerica Goes Public: Early Ceremonial Centers, Leaders, and Communities. *Mesoamerican Archaeology*,

- edited by Julia A. Hendon and Rosemary A. Joyce, pp. 43-72. Blackwell, Oxford.
- Clark, John E., and Dennis Gosser  
1995 Reinventing Mesoamerica's First Pottery. *The Emergence of Pottery: Technology and Innovation in Ancient Societies*, edited by William Barnett and John Hoopes, pp. 209-221. Smithsonian Institution Press, Washington, D.C.
- Conrad, Geoffrey W., and Arthur A. Demarest  
1984 *Religion and Empire: The Dynamics of Aztec and Inca Expansionism*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Cowgill, George L.  
2015 *Ancient Teotihuacan: Early Urbanism in Central Mexico*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Evans, Susan Toby  
2008 *Ancient Mexico and Central America: Archaeology and Culture History*. Second edition. Thames and Hudson, London.
- Evans, Susan Toby, and David L. Webster (eds.)  
2001 *Archaeology of Ancient Mesoamerica and Central America: An Encyclopedia*. Garland, New York.
- Hendon, Julia A., and Rosemary A. Joyce (eds.)  
2004 *Mesoamerican Archaeology: Theory and Practice*. Blackwell, Malden.
- 日高真吾・関雄二・橋本沙知・椎野博  
2014 「アンデス文明形成期の金属製品の製作に関する一考察：クントゥル・ワシ遺跡およびパコパンハ遺跡出土の金属製品の蛍光 X 線分析の結果から」 『国立民族学博物館研究報告』 38(2):125-185。
- Hirth, Kenneth (ed.)  
2003 *Mesoamerican Lithic Technology: Experimentation and Interpretation*. The University of Utah Press, Salt Lake City.
- Hirth, Kenneth, and Joanne Pillsbury (eds.)  
2013 *Merchants, Markets, and Exchange in the Pre-Columbian World*. *Dumbarton Oaks Research Library and Collection*, Washington, D. C.
- Hosler, Dorothy  
1994 *The Sounds and Colors of Power: The Sacred Metallurgical Technology of Ancient West Mexico*. The MIT Press, Cambridge, MA.
- Houston, Stephen D.  
2004 Writing in Early Mesoamerica. *The First Writing: Script Invention as History and Process*, edited by Stephen D. Houston, pp. 274-309. Cambridge University Press, Cambridge.
- Houston, Stephen D., and Takeshi Inomata  
2009 *The Classic Maya*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Inomata, Takeshi  
2001 The Power and Ideology of Artistic Creation: Elite Craft Specialists in Classic Maya Society. *Current Anthropology* 42:321-349.
- Inomata, Takeshi, and Stephen D. Houston (eds.)  
2001 *Royal Courts of the Ancient Maya*. 2 vols. Westview Press, Boulder.
- Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Kazuo Aoyama, Victor Castillo, and Hitoshi Yonenobu

- 2013 Early Ceremonial Constructions at Ceibal, Guatemala, and the Origins of Lowland Maya Civilization. *Science* 340:467-471.
- Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Jessica Munson, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Flory Pinzón, and Hitoshi Yonenobu
- 2015 Development of Sedentary Communities in the Maya Lowlands: Coexisting Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112(14):4268-4273.
- 井上幸孝 (編)
- 2014 『メソアメリカを知るための58章』 明石書店。
- 泉靖一
- 1966 「初めに神殿ありき：無土器時代に農業も」 『朝日新聞（夕刊）』 9月21日、p.5。
- Joyce, Rosemary A.
- 2004 Mesoamerica: A Working Model for Archaeology. In *Mesoamerican Archaeology: Theory and Practice*, edited by Julia A. Hendon and Rosemary A. Joyce, pp. 1-42. Blackwell, Malden.
- 加藤泰建・関雄二 (編)
- 1998 『文明の創造力：古代アンデスの神殿と社会』 角川書店。
- Kirchhoff, Paul
- 2009[1960] *Mesoamérica, sus límites geográficos, composición étnica y caracteres culturales*. Al fin libre, Xalapa.
- Kolata, Alan L.
- 2013 *Ancient Inca*. Cambridge University Press, Cambridge.
- 小林致広 (編)
- 1995 『メソアメリカ世界』 世界思想社。
- Lamberg-Karlovsky, C. C., and Jeremy A. Sabloff
- 1995 *Ancient Civilizations: The Near East and Mesoamerica*. Second edition. Waveland Press, Prospect Heights.
- Lesure, Richard G. (ed.)
- 2011 *Early Mesoamerican Social Transformations: Archaic and Formative Lifeways in the Soconusco Region*. University of California Press, Berkeley and Los Angeles.
- Lesure, Richard G., and Thomas A. Wake
- 2011 Archaic to Formative in Soconusco: The Adaptive and Organizational Transformation. *Early Mesoamerican Social Transformations: Archaic and Formative Lifeways in the Soconusco Region*, edited by Richard G. Lesure, pp. 67-93. University of California Press, Berkeley and Los Angeles.
- Maldonado, Blanca
- 2012 Mesoamerican Metallurgical Technology and Production. *The Oxford Handbook of Mesoamerican Archaeology*, edited by Deborah L. Nichols and Christopher A. Pool, pp. 617-627. Oxford University Press, Oxford.
- 増田義郎・青山和夫
- 2010 『世界歴史の旅：古代アメリカ文明 アステカ・マヤ・インカ』 山川出版社。
- Miller, Mary
- 2012 *The Art of Mesoamerica: From Olmec to Aztec*. Fifth edition. Thames and Hudson, London.
- Miller, Mary, and Karl Taube



- 1993[2000] *An Illustrated Dictionary of the Gods and Symbols of Ancient Mexico and the Maya*. Thames and Hudson, London. (『図説マヤ・アステカ神話宗教事典』増田義郎監修：東洋書林)
- Moore, Jerry D.  
2014 *A Prehistory of South America: Ancient Cultural Diversity on the Last Known Continent*. University Press of Colorado, Boulder.
- Morris, Craig, and Adriana von Hagen  
2011 *The Incas: Lords of the Four Quarters*. Thames and Hudson, London.
- Moseley, Michael E.  
2001 *The Incas and Their Ancestors: The Archaeology of Peru*. Revised edition. Thames and Hudson, London.
- 長田俊樹  
2013 『インダス文明の謎：古代文明神話を見直す』京都大学学術出版会。
- Nichols, Deborah L., and Christopher A. Pool (eds.)  
2012 *The Oxford Handbook of Mesoamerican Archaeology*. Oxford University Press, Oxford.
- 大貫良夫・加藤泰建・関雄二 (編)  
2010 『古代アンデス：神殿から始まる文明』朝日選書。
- Palka, Joel W.  
2000 *Historical Dictionary of Ancient Mesoamerica*. Scarecrow Press, Lanham.
- Quilter, Jeffery  
2014 *The Ancient Central Andes*. Routledge, New York.
- Roosevelt, Anna C.  
1995 Early Pottery in the Amazon: Twenty Years of Scholarly Obscurity. *The Emergence of Pottery: Technology and Innovation in Ancient Societies*, edited by William Barnett and John Hoopes, pp. 115-131. Smithsonian Institution Press, Washington, D.C.
- Sabloff, Jeremy A.  
1997 *The Cities of Ancient Mexico*. Revised edition. Thames and Hudson, London.
- Scarborough, Vernon  
2009 The Archaeology of Sustainability: Mesoamerica. *Ancient Mesoamerica* 20:197-203.
- Scherer, Andrew K., and John W. Verano (eds.)  
2014 *Embattled Bodies, Embattled Places: War in Pre-Columbian Mesoamerica and the Andes*. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D. C.
- Shady Solís, Ruth  
2007 *La Ciudad Sagrada de Caral-Supe: Símbolo Cultural del Perú*. Instituto Nacional de Cultura, Proyecto Especial Arqueológico Caral-Supe, Lima.
- Shimada, Izumi  
1994 *Pampa Grande and the Mochica Culture*. University of Texas Press, Austin.
- 杉山三郎  
2015 「新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市」『文明の基層：古代文明から持続的な都市社会を考える』（長田俊樹・杉山三郎・陣内秀信編）pp. 26-40、東京大学出版会。

杉山三郎・嘉幡茂・渡部森哉

2011 『古代メソアメリカ・アンデス文明への誘い』 風媒社。

Smalley, John, and Michael Blake

2003 Sweet Beginnings: Stalk Sugar and the Domestication of Maize. *Current Anthropology* 44:675-703.

関雄二

2006 『古代アンデス：権力の考古学』 京都大学学術出版会。

2010 『アンデスの考古学（改訂版）』 同成社。

関雄二（編）

2015 『古代文明アンデスと西アジア：神殿と権力の生成』 朝日選書、東京。

関雄二・青山和夫

2005 『岩波アメリカ大陸古代文明事典』 岩波書店。

常木晃

2014 「西アジア文明学の提唱」『西アジア文明学への招待』（筑波大学西アジア文明研究センター編） pp.2-8、悠書館。

von Hagen, Adriana, and Craig Morris

1998 *The Cities of the Ancient Andes*. Thames and Hudson, London.

Weatherford, Jack

1988[1996] *Indian Givers: How the Indians of the Americas Transformed the World*. Fawcett Columbine, New York.

（『アメリカ先住民の貢献』小池佑二訳：パピルス）

Witschey, Walter R. T., and Clifford T. Brown

2012 *Historical Dictionary of Mesoamerica*. Scarecrow Press, Lanham.

安田喜憲

2009 『稲作漁労文明：長江文明から弥生文化へ』 雄山閣。

Zeitlin, Robert N., and Judith F. Zeitlin

2000 The Paleoindian and Archaic Cultures of Mesoamerica. *The Cambridge History of the Native Peoples of the Americas Volume II: Mesoamerica*, edited by Richard E. W. Adams and Murdo J. MacLeod, pp. 45-121.

Cambridge University Press, Cambridge.

原稿受領日 2016年5月20日

原稿採択決定日 2016年8月20日